

学科への意見・要望

最近のアンケートで寄せられた、コースへの要望や疑問点で多かったものを示します。

Q. このアンケートって役に立ってるの？

A. 非常に役に立っています。皆さんから寄せられた意見は、少数意見も含め、全て講義担当者やコース会議に報告しています。教える側にしてみれば目からウロコのような意見も多く寄せられており、今後の講義の進め方やカリキュラムの組み方に大きく影響を与えるものになっています。

Q. アンケートの結果って公開されてるの？

A. 資源循環システムコースのホームページで簡約版を公開しています。より詳細な結果を閲覧したい場合には、教育システム改善委員に連絡すれば、アンケートの結果を閲覧できるようになっています。しかし、堅苦しい報告書なんて見たくない、という人もいると思うので、今後はこのようなニュースを不定期に配信していきたいと思っています。

Q. 学科名（コース名）を変えた方が良いのでは？

A. このような意見は毎年のように寄せられています。「地球システム工学科にすべき」とか、「カタカナの方がカッコいい」とか、中には、「鉱山工学科に戻した方が良い」とか、「学科名（コース名）をコロコロ変えずぎ」なんていう意見もあります。意見は色々あると思いますが、今のところ教員の中では、現在のコース名は我々の教育・研究内容に合ったものだと考えています。

Q. 履修に制限が多すぎ。選択科目の幅を増やして欲しい。学年で講義数が不均衡だ。

A. この意見も毎年のように寄せられています。特に2005年度からは、新カリキュラムに移行したこともあって、不自由を感じている人も多と思います。

現在のカリキュラムや時間割は、基礎科目を終えてから応用科目を学ぶ、というような講義のつながりや、単位を落としたり、次年度以降に再履修しやすいようにすること、などを考慮して組まれています。そのため、学年によって講義数にばらつきがあることや、2,3年生で選択科目が少ないことなどは、ある程度仕方のないことで、ご理解頂ければと思います。

Q. 語学（英語）の科目を取り入れて欲しい。

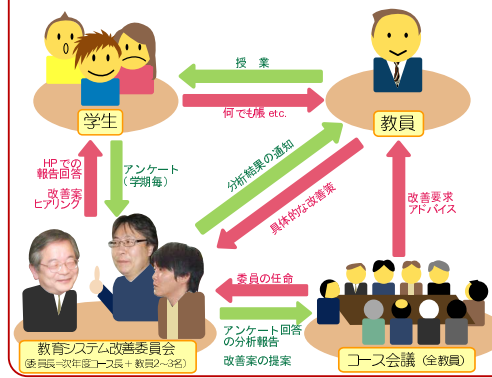
A. 語学そのものの講義を専門科目として開講することは難しいかもしれませんが。しかし最近では工学的な英語を意識して講義を行っている先生方も増えてきました。また本コースの大学院では留学生が多いので、研究室のゼミや大学院の講義を英語で行っているところも数多くあります。おそらく4年生以降になれば、語学の点については満足してもらえらると思います。また、全学の中で、英語論文指導など受講選択できる科目があるので、その周知も図りたいと考えています。

Q. 先生方と学生との交流の場があればいい。直接先生と話がしたい。

A. 本コースの教員ならば、気軽に教員室や研究室を訪ねていっても大丈夫です。いつでも話に来て下さい。



本コースにおける教育改善のしくみ

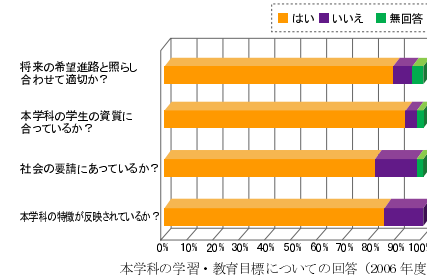


資源循環システムコース（資源開発工学科）・教育システム改善委員会が、学生の皆さんに提供する教育システムを継続的に改善していくという趣旨で、2002年度に設置されたアンケートを年々実施し、学生・卒業生を対象としたアンケートを定期的にチェックすることや、講義の内容、方法などを寄せられた意見は、委員会で分析し、改善が必要である場合はコースの教員会議や講義担当者に報告し、改善を求めます。2006年度は米田委員長や委員、広吉直樹委員、原田周作委員の三名で構成されています。

アンケート結果

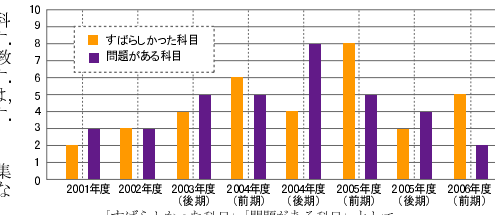
■学習・教育目標について

本コースが掲げている学習・教育目標についての回答結果を右の図に示します。学習・教育目標については例年肯定的な意見が多く、毎年のアンケートでほぼ8割以上の方が適切であると答えています。しかし、アンケートを実施するまで学習・教育目標があることを知らなかった、という人も多くいることもわかりました。学習・教育目標はコース教育の大事な柱となるものなので、もっと学生の皆さんに知ってもらわなければならないと考えています。学習・教育目標は、コース分属時や進級時のガイダンスの時に配布しています。またコースのホームページにも掲載しているので、いつでも確認することができます。



■カリキュラム・講義内容について

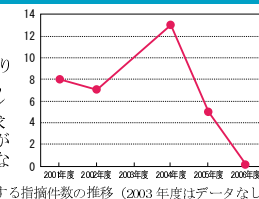
右の図は、過去5年間で「すばらしかった科目」および「問題がある科目」として、それぞれ4件以上の指摘があった科目の数を表しています。アンケートで「問題がある科目」として指摘の多かった科目は、担当教員にどういった指摘があったのかを伝え、講義内容の改善を求めています。また「すばらしかった科目」で最も得票数の多かった科目の担当教員は、「Teacher of the Year」としてコースのホームページに掲載しています。図を見てみると、「すばらしかった科目」の数は年によってばらつきがありますが、「問題がある科目」は、最近では徐々に減少していることがわかります。以前では、「問題がある」として10件以上の指摘が集まる科目もありましたが、最近ではそういった科目はほとんど見られなくなりました。



アンケート結果を活用した改善例

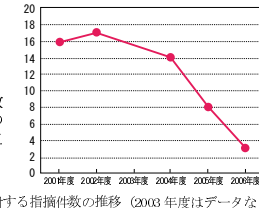
(改善例その1 - 専門科目Aの場合)

この科目はアンケート開始当初、「わかりにくい」「説明が不十分」などの理由で、問題があると指摘されていました。アンケートの声を担当教員に伝えて改善を求めたところ、2004年度以降は指摘件数が減少し、2006年度は指摘件数がゼロになりました。



(改善例その2 - 専門科目Bの場合)

この科目は演習科目で、「説明が不十分」「TAがしっかりしていない」などの理由で問題があると指摘されていました。教育システム改善委員会が担当教員にその旨を伝えて改善を求めたところ、徐々に指摘件数が減少しました。



講義評価アンケート 氏版

式七年 参月号

Teacher of the Year

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は、Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。

歴代Teacher of the Year

- ★ 2002年度 物理化学 恒川昌美先生・広吉直樹先生
- ★ 2003年度 応用数学演習1 立崎武弘先生・明楽浩史先生
- ★ 2004年度 物理化学 恒川昌美先生・伊藤真由美先生
- ★ 2005年度 応用数学1 明楽浩史先生

